

インタビュー

変革期にどう挑む

石崎本店(広島市安芸区) 石崎泰次郎社長



「ミラーとガラスの技術を軸に、新しい価値を生み出す」

ミラー・ガラスで新価値 車内空間快適で安全に

自動車のドアミラーなど製造の石崎本店(広島市安芸区)は5月、石崎泰次郎氏(44)が5代目社長に就いた。トップ交代は27年ぶり。業界が大変革期を迎える中、「部品で新しい価値を生み出せるかが重要だ。ミラーとガラスの技術を磨き、車内空間をより快適にできる商品を開発する」と意気込む。

(井上龍太郎)

「事業を取り巻く環境をどうス」への対応など、私たちが認識しています。大きな変化を求められている。ドアミラーで視認性を提供する。カメラに取っ

「どんな戦略ですか。空間がキーワードだ。私たちはウインドーガラスもマツダに納めている。ミラーとガラスの技術を組み合わせ、快適で安心安全な車内空間という価値を生み出したい。今後はガラスをスクリーンとして使うような技術が増えるだろうし、自動運転では車外の様子を映像で確かめる機能の需要も予想される。将来を見据えた研究開発を既に他社と進めている。次の中期経営計画を始める来年度から、開発を一段と加速させる。

一定元の取り組みは、品質の改善が喫緊の課題だ。20、30の部品群で構成するミラーは、ビスをなくしてはめ込み式にするなどシンプルさを追求してきた。他社製より部品が1割少なく、軽さやコストで評価を得ている。ただ、耐久性を高めきれない。強みを生かしつつ改良する。

マツダが米国で稼働させる新工場にも対応する。昨年、米アラバマ州に生産拠点を新設した。そこからガラスを納め、ミラーはメキシコ工場から供給する。

「建材部門もあります。今は売上高の85%が車部品だが、103年前はガラスの卸売りで創業した。おりづるタワー(中区)の折り鶴を投入

「父信三氏(74)からバトンを託されました。ものづくりに対する父の考えを継ぎ、人の育成にも力を注ぐ。ミラーには駆動部品もあり、電気や化学など全ての学問が必要で一人では追いつけない。大変でもやりがいがある。」「面白い」挑戦を大切に、全員が活躍できる会社を目指

組んでいる。昨年1月、AIの活用で企業の経営改善支援などを手掛けるブレインパッド(東京)と装置を開発した。筆を回転させながらカメラで穂先を

現在の分析時間は筆一本約20秒と、職人の目に比べて倍以上かかる。実用化にはスピードのアップや多様な類に対応できる能力が必要

み取る技術の確立も目指す。土屋武美社長は「AIで安定した検品ができれば、職人の負担も減る」と期待する。

ちようちんの和紙を自動



「事業の年間売上高を将来的に100億円にしたいと考えて。根石紀雄社長は「多様な来店者のライフスタイルに心える店にしたい」と話している。(簡井晴信)

中国経済